

「今月の1枚」

ツリーシェルターとスギ

四国では人工林を伐採したあと再び木を植える再造林の動きが加速しています。

しかし、ニホンジカが増えてきたため、そのまま植えただけでは苗木が食べられてしまいます。

そこで、防護柵で造林地全体を囲ったり、写真のようにプラスチック製の筒（ツリーシェルター）を被せて木を一本一本保護しています。四国支所では九州支所と共同でツリーシェルターを施工した造林地の実態調査を行い、ツリーシェルターがうまく機能する条件を探っています。

写真 1

ツリーシェルター



写真 2

ツリーシェルターの高さは140cm。

苗木が成長してツリーシェルターから枝葉が出ると食べられる場合があります。



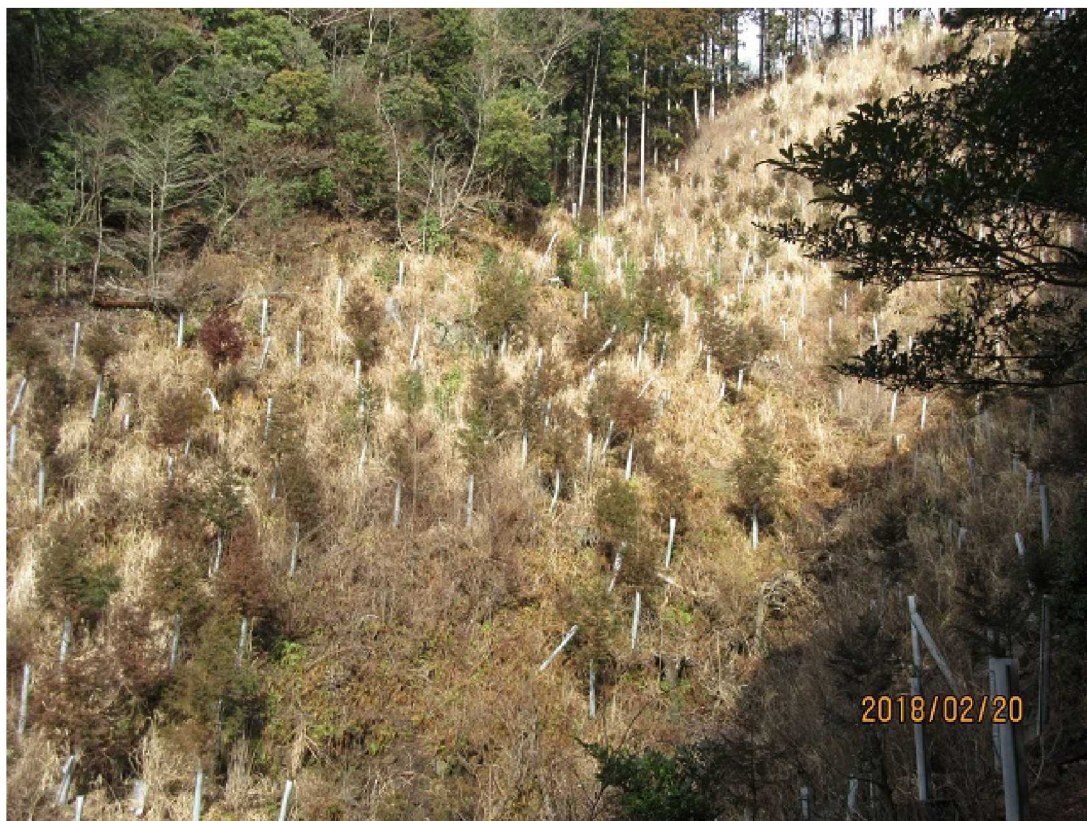
写真 3

何らかの理由でツリーシェルターの中で苗木が枯れてしまうものもあります。



写真 4

ここは幅40mの帯状伐採をしたあとスギを植栽して6年経過した場所です。
ところどころスギが生えていない場所がありますが、全体としては何とか成林できそうです。
どういう条件（植栽面積、斜面の向き、傾斜角、シカの生息密度など）なら成功するのか探るため、
施工事例をたくさん集めているところです。



(写真・文：酒井敦 2019年2月20日徳島県で撮影)

(No.281 2019.3.5 掲載)